

VOICES 祝 みんなの声

2015(平成 27)年 5 月 25 日発行 第 22 号 (隔月 25 日発行)

冊 社会福祉法人 サンフレンズ 法人事務局地域福祉推進担当広報

〒167-0023 東京都杉並区上井草 3-33-10

☎ 03-3394-9833 Fax 03-3394-9834

メール hozumi-kaneko@3friends.or.jp

ホームページ <http://www.3friends.or.jp/>



祝復刊!

地域福祉推進室改め法人事務局地域福祉推進担当では
ボランティアコーディネート、困った時のSOS事業等を所掌

サンフレンズ上井草の中庭にバラが満開。特養・上井草園の居住者である桂田良一さん(87歳)による種別の選定、手入れの方法、レイアウト等のアドバイスの下、ボランティアさんや職員の協力で、今年も大輪の花を咲かせました。季節はずれの台風にも負けなかった強く美しい花…、皆さんの力と愛の結晶です。

(美しく咲いたバラと、それをカメラに収める桂田さん 5月18日撮影)

地域福祉推進担当部署の組織改変および
『VOICE・みんなの声』復刊にあたって

法人事務局地域福祉推進担当課長
金子 穂純

このたび社会福祉法人サンフレンズの組織改編にあたって、法人事務局に配属となりました、地域福祉推進担当課長の金子穂純(かねこほずみ)と申します。地域福祉推進担当は、法人の元来の目的である**住民の視点に立った地域福祉の推進を企画・実践**していく業務を所掌します。ソーシャルワーカーとしてそれをコーディネートしていくことが私の仕事です。

地域福祉推進担当の前身にあたる地域福祉推進室では、多くの方のご協力を得ながら、実り多い経験をさせていただきました。これらを生かし、これからも**法人と地域住民の理想的な関係づくり**について新しいチャレンジしてまいります。事務局地域福祉推進担当では、おおよそ以下の事業を所掌します。

- ① ボランティアコーディネート事業
- ② 困った時のSOS 地域で恩送り事業
- ③ 実習生受入態勢整備事業
- ④ 広報事業

⑤ 地域住民の福祉活動の支援・開発事業
まずは、活動されている皆さんとお逢いし、活動に同席させていただいたり、お話を伺う機会を多くつくらせていただくと、ところから始めます。皆様とともに汗を流し、笑い、ときには一緒に悩みながら頑張っていきたいと考えています。

本紙『VOICES・みんなの声』は組織改編にあたって休刊していましたが、多くの方から復刊のご要望を賜り、これからも地域の皆さんの声をいただきながらつくっていききたいと考え、復刊を決めました。とりあえず隔月での発行を予定しています。どうぞ、よろしく願います。

困ったときのSOS 地域で恩送り



恩送り って…？

「恩送り」とは、誰かから受けた恩が、直接その人に返すのではなく別のの人に送られ、さらにその人から別のの人に送られることによって、世の中に広く巡っていくという意味です。

社会福祉法人サンフレンズでは、事業運営の中から集まった多くのご相談、地域課題の中から、既存のサービスでは対応しにくい「ちょっとした困りごと」に対して、地域住民同士の「恩送り」精神で解決していく仕組み（SOS＝サンフレンズ恩送りサービス）をつくり、2011年から開始しました。

困ったときのSOS

電球が切れてしまい、椅子に乗って交換しようとするけれど届かない…。買い物に行かなければならないけれど、体調を崩してしまって行けない…。このような既存のサービスでは対応しにくい「ちょっと困った」に対して、SOS応援隊のボランティアが「ちょっとお手伝い」にお伺いします。ボランティアさんには介護等の専門性は求めません。お知り合いが困った時に手を貸す程度の支援活動です。

あるときは困っている立場でお手伝いを受け、またあるときは応援隊として手伝う立場になります。「お互いさま」の気持ちを持った地域住民同士による相互扶助活動です。

※支援活動提供地域は、歩いて行ける事業所近隣（詳細ご相談ください）を対象としています。
※ご利用料金は200円／10分です。お電話にてご相談下さい。支援内容や時間によっては対応できない場合もございます。活動者に対しては、1回の出勤につきわずかですが2ポイント（80円）の活動ポイントを四半期に一度お支払いします。

SOSふれあいサロン上井草

困ったときのSOSセンターを、地域の皆さんが気軽に集える場（サロン）として開放しています。サロンでは、茶話会、会食、クラブ活動（編物、手工芸、大正琴、写真）、お出かけサロン（外出行事）などを日替わりで行っています。

老若男女・年齢の制限なし、予約不要。お一人でフラッと寄ってみるのも良し、お友達をつれてくるのも良し、小さなお子さんやお孫さんを連れてのご参加はさらに嬉しいところです。一杯のお茶から、障がいの有無、世代を超えた交流を深めていただきたいと思います。

※茶話会とクラブ活動は1回200円、会食は1回600円、お出かけサロンは実費をいただきます。



手工芸クラブ（月曜日）の様子

「ちょっと困った」方も、「ちょっと手伝える」方も、まずはご相談を…

私たちは「誰かを支え」同時に「誰かに支えられて」暮らしています。ちょっと困っている方、ちょっと手伝ってほしい方、サロンに参加してみたい方、どうぞお気軽にご相談ください。ともに支えあう地域づくりにあなたも参加してみませんか？

困ったときのSOSセンター

場所：〒167-0023

杉並区上井草 2-35-2 朗栄荘 205号

上井草駅南口からバス通りを南（荻窪方面）に徒歩2分

事業日：月曜～金曜、午前9時～午後5時

土、日、祝日、年末年始はお休みです

電話：03-5303-4246



ボランティアコーディネート

ボランティア活動の持つ意義と可能性

ボランティア活動は、個人の自発的な意思から始まる活動ですが、活動者個人の自己実現への欲求や社会参加意欲が満たされるだけでなく、その活動の広がりによって環境、教育、福祉等への関心が高まり、その結果として、人と人が共に支え合い、交流する地域社会づくりが進むなど、大きな意義と可能性を持っています。



サンフレンズはボランティア活動から始まりました

私たち社会福祉法人サンフレンズは、高齢社会の到来に備え、「豊かな老後は自分たちの活動から築いていこう」という地域住民のボランティア活動から始まった団体です。高齢社会の主役である高齢者は、たとえいくらかの介護が必要な状態になったとしても、まだまだ多くの残存能力を有し、バイタリティー（生命力）に溢れ、そして人とのふれあいを大切にしていきたいと望んでいます。しかしながら、介護が必要な状態になると必然的に人との交流の機会が減ってきてしまいます。そんな方々にとってのボランティアさんとの交流は、人間関係や活動の幅を維持するもの、生活意欲や生活の質の向上につながっていくものであると、私たちは信じています。



サンフレンズが杉並区内の複数箇所で高齢者介護事業を展開できるようになった今、サンフレンズのそれぞれの事業所には、高齢者の日常生活を維持していくための援助の他に、地域住民のボランティア活動への理解を深め、参加を促進するための拠点として、また人と人のふれあいの場・交流の場としての社会的役割があると考えます。この役割に積極的に応えていくため、サンフレンズではボランティアの受け入れに関する方針を明らかにし、その方法・態勢などの整備に努めてまいりました。

ボランティアコーディネーターの配置

特養上井草園とデイサービス上井草ふれあいの家が併設しているサンフレンズ上井草には、開設以来、多くのボランティアさんが関わってくださっています。活動内容は、利用者様のお話し相手、お茶等の配膳、クラブ活動の指導、音楽等のパフォーマンス披露から、中庭の植物の剪定や小鳥のお世話まで様々。これらボランティアさんが希望される活動を施設で受け入れるための調整をしたり、新しくいらっしゃるボランティアさんの活動を支援するために、2007年からボランティアコーディネーターを配置してまいりましたが、今年度から法人事務局地域福祉推進担当がボランティアコーディネート業務を引き継ぐことになりました。



将来的には、サンフレンズ上井草という建物の中だけではなく、前ページで紹介させていただいた『困った時のSOS活動』や法人全体の事業所に亘る活動支援、さらには法人内外に関わらず地域に貢献するボランティア活動を支援できるよう、少しずつ手を広げていきたいと考えています。

★夏祭りのボランティアさん大募集

特養・上井草園 8月23日(日) デイサービス・上井草ふれあいの家 24日(月)、25日(火)、26日(水)

浴衣の着付けや、建物内を利用者さんと一緒に回っていただく活動、模擬店担当など、いつもより多くのボランティアさんにご協力を願っています。詳細は後日チラシ等でお知らせいたしますが、それぞれ午後1時から3時30分くらいまでの活動となる見込みです。

★物品ご寄付のお願い！ 毛糸(未使用)、和(着物)生地、木綿夏糸、フェルト

上井草ふれあいの家やSOSサロンの編物クラブや手工芸クラブで使います。

連載 この人・この曲 ～第20回 小林文子さん『パフ(Puff, The Magic Dragon)』～



小林さんがいらっしやると“こふみ”も“文太”も嬉しそう

小林さんは福岡県のご出身。1966年の大学入学以来、東京で生活されています。1960年代、アメリカでは若者達の力が公民権運動・反戦運動を牽引しました。それが飛び火した日本では、1960年代末に学生運動・学園紛争のピークを迎えました。小林さんが上京されての大学生活は、まさにその渦中でした。現在は井荻にご在住で『5歳のお孫さん成長が一番の楽しみ』とおっしゃる小林さんが、思い出の1曲として挙げてくださったのは、大学で英語を専攻されていた当時によく聴き、学友のギターに合わせて英語で歌い、ハモった（ハーモニーで歌った）ピーター・ポール&マリー（通称PPM）のヒット曲『パフ』でした。

『パフ (Puff, The Magic Dragon)』 この曲を You Tube で聴いてみよう→<http://www.youtube.com/>

ピーター・ポール&マリー (Peter, Paul & Mary=通称 PP&M) は、1960年代のアメリカで最も成功したフォーク・グループの一つ。ピーター・ヤローウ、ノエル・ポール・ストゥーキーと紅一点マリー・トラヴァースのトリオ。1961年、フォーク歌手の登竜門であったニューヨークのグリニッジ・ヴィレッジのコーヒョップで歌い始めるとたちまち評判になり、翌年にはレコード・デビュー。このトリオの大きな特徴は華麗なハーモニーと、心地良いアコースティック・ギター。とくにスリー・フィンガー奏法と呼ばれた温もりのあるギターの音色は、60年代の若者たちに絶賛されました。もうひとつの特徴は、社会性を帯びたメッセージ・ソングを積極的に取り入れたことで、歌を通じて公民権運動、反戦運動、その他の社会的正義を主導する運動の第一線に立ち続けました。日本での人気も高く、1964年に初来日して以降、1960年代にはしばしば来日公演を行い、1967年の来日時にはライブ盤『In Japan』を制作しました。ソロ活動のために1970年に一時解散しましたが、1978年に原発反対運動の支援コンサートのために再結成。以来、年間約40回のコンサートを毎年行ってきましたが、2009年にマリー・トラヴァースが白血病のため逝去（72歳）して、再び3人が揃うことは叶わなくなりました。

『パフ』の歌詞は1959年、コーネル大学の学生**レナード・リプトン**が19歳の時に作ったものに、学友の**ピーター・ヤローウ**が歌詞を加えて作曲、1961年からピーター・ポール&マリーの曲として演奏されるようになり、1963年にレコードとして発表されて大ヒットしました。歌詞の内容は、不老のドラゴン（＝パフ）と少年ジャッキーとの交流と別れを描いたものでしたが、時代背景によって、深読みされた歌詞の解釈が独り歩きして、反戦歌やドラッグ・ソング（麻薬の歌）と曲解されてしまうことが多くありました。1985年に作者のピーター・ヤローウ自らが「歌詞の解釈にさまざまな誤解があるようだが、他意はなく、**子どもの成長の歌だ**。」という内容のコメントをしています。日本では1990年代に小学校3年生向けの音楽教科書に掲載され、幼児向け番組で放映されるなど童謡としての印象が強いようですが、どうやら日本人の素直な解釈が一番正しかったようですね。

ホームページ「ウィキペディア」から一部引用させていただきました。